



竹亭
夏来

具定

我身は世の塵芥
志守り合く一物なり
夏来にあり

二庭の面を海は竹ハ
志守り合く一物なり
夏来にあり

印花
似雪

庭の面の似雪を
時好くぬ雪ぬぬわ

この印花の老
もつるよとよらぬ

印の老ハ雪をよらぬ

うぬはれは也





竹亭
夏来

具定

我念_{わがこころ}は海_{うみ}の景_{けい}

志_{こころ}守_{まも}り舎_や々_々一_{ひと}粒_{つぶ}乃_の々_々

夏_{なつ}ハ来_きに守_{まも}り

二_{ふた}庭_{にわ}の雨_{あめ}の氣_き流_{なが}れけ_けハ

志_{こころ}守_{まも}り何_{なに}れい_い々_々夏_{なつ}来_き乃_の々_々

尺_{しゃく}も_も々_々涼_{すず}々_々



るもゝ涼

印花

似雪

庭の面のうらぬ
時ぬぬ雪ぬぬぬ

るもゝ知の老

るもゝ知の老

知の老ハるもゝ

るもゝ知の老

Handwritten text in a vertical column on the right side of the page, likely in a cursive script. The text is partially obscured by a vertical crease or fold in the paper.